

第2回 旧検見川無線送信所の利活用に関する
ワークショップ等開催業務委託報告書

令和3年3月
千葉市



1. 現地見学会	3
2. ワークショップ	
概要	5
ワークショップ準備	6
ワークショップの事前説明	7
グループディスカッション	
－ Aグループ	8～9
－ Bグループ	10～11
－ Cグループ	12～13
－ Dグループ	14～15
3. 総括	16



1. 現地見学会



現地見学会

意見交換を活発にすることを目的として、旧検見川無線送信所（以下、「送信所」）の歴史説明や内部見学などを含めた現地見学会を開催。

参加者（計20名）を定員3名×8枠に分け、1枠20分以内で施設内を案内した。

見学ルートは1Fエントランスから2Fへ上がり、庶務課事務室、第一発振室、屋上へ上がるルートとした。

◆日程 ※（ ）は参加人数

・2/27（土）

①9:00～9:30(3人) ②9:30～10:00(3人) ③10:00～10:30(3人) ④10:30～11:00(2人) ⑤11:00～11:30(1人)

・2/28（日）

①9:00～9:30(3人) ②9:30～10:00(2人) ③10:00～10:30(3人)

計20名

◆新型コロナウイルス感染症対策

- ・マスクの着用
- ・入所前の検温
- ・手指のアルコール消毒
- ・屋内の会話を極力避けるため、入口手前と屋上で説明
- ・1グループ最大参加人数を3名まで
- ・見学時間は1グループ20分程度





2. ワークショップ



「第2回 旧検見川無線送信所の利活用に関するワークショップ」は、2021年3月7日（日）にオンラインおよび千葉ポートサイドタワー会議室で開催した。

当日は、グループ単位でのディスカッションを50分×2回実施するほか、周辺の町情報や住民参加型ワークショップを行う意義などの事前説明を行った。最後は各チームでの議論の内容を発表し合う場を設け、総括ファシリテーター山崎氏からの総評をもって閉会とした。

当日のタイムテーブル

- 13:00～13:05 開会のあいさつ
- 13:05～13:10 イントロダクション
- 13:10～13:25 検見川の町紹介・施設の利活用事例
- 13:25～13:55 地域住民のためのデザインワークショップ
- 13:55～14:05 休憩
- 14:05～14:55 グループディスカッション（1）
- 14:55～15:05 休憩
- 15:05～15:55 グループディスカッション（2）
- 15:55～16:05 休憩
- 16:05～16:35 チーム発表
- 16:35～16:45 総評 および 閉会のあいさつ

当日は10代から60代までの合計25名がグループディスカッションに参加し、参加方法の希望や年齢層などを踏まえ、参加者を以下の4グループに編成した。

Aグループ (現地会場)

60代以上：2名 (全て男性)
40代：2名 (男性1名女性1名)
20代：2名 (男性1名女性1名)
10代：1名 (男性)

計7名

Bグループ (オンライン会場)

60代以上：1名 (男性)
50代：1名 (男性)
30代：2名 (男性1名女性1名)
40代：1名 (女性)
10代：1名 (男性)

計6名

Cグループ (オンライン会場)

60代以上：1名 (男性)
50代：1名 (男性)
40代：1名 (男性)
30代：1名 (女性)
10代：1名 (男性)

計5名

Dグループ (オンライン会場)

60代：3名 (全て男性)
50代：1名 (男性)
40代：1名 (女性)
30代：1名 (男性)
20代：1名 (女性)

計7名

ワークショップの事前説明

■開会のあいさつ

千葉市教育委員会事務局生涯学習部 文化財課より

■イントロダクション

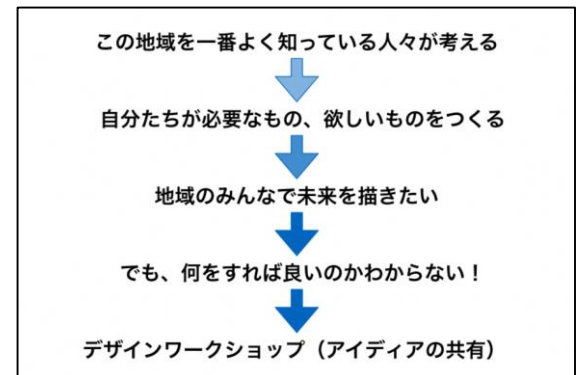
令和2年9月に開催した第1回ワークショップで聴取した意見を参加者に紹介し、参加者へこれから実施するワークショップの進行イメージを共有した。

■検見川の町紹介・施設の利活用事例

千葉市花見川区及び送信所が立地する検見川5丁目の人口傾向や町の魅力等に関するプレゼンテーションが行われ、町としての発展の潜在的な可能性が紹介された。また、利活用のイメージを膨らませるため、送信所と同様に廃墟のまま置かれた施設が、宿泊施設やビジネスサロン等になった利活用事例を取り上げた。

■地域住民のためのデザインワークショップ

統括ファシリテーターの山崎氏から魅力的なまちの特徴や住民参加型まちづくりの重要性等に関するプレゼンテーションが行われた。また、立地条件や収益性等現実的な制約条件は考慮せずに自由な発想で発言することや次世代を見据えながらワクワクしながら議論すること等、ワークショップでの意見交換を活性化するためのコツについて解説が行われた。



土日の過ごし方

- ・イオンモール幕張新都心
- ・幕張商店街
- ・親子カフェ検見川コミュニティスペース
- ・海浜幕張
- ・ディズニー
- ・津田沼

検見川及び周辺エリアの魅力・特徴

- ・検見川神社
- ・情緒的で愛される神社が多い
- ・駅伝で有名
- ・浅間神社のお祭り（稲毛）
- ・検見川総合運動場

利用に関する課題

- ・送信所周辺の区画整理事業の今後の予定に関する情報が必要

送信所利活用方針

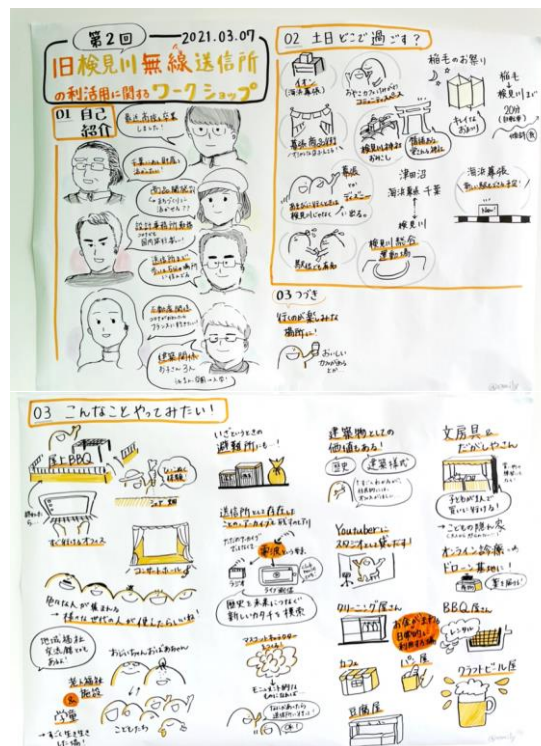
- ・様々な人（世代、性別、国籍等）が使える場所
- ・送信所を象徴し、宣伝効果も期待できる
マスコットキャラクターを作る
- ・送信所として存在したことのアーカイブを残す
- ・雇用や利益が生まれる場所
→日常的に利用できる場所
- ・建築としての価値を残す
- ・行くのが楽しみになる場所
- ・こどもの隠れ家
- ・いざというときの避難所

送信所利活用の方法

- ・ カフェ
- ・ コンサートホール
- ・ オンライン診療の場
- ・ 老人福祉施設&学童
- ・ 屋上バーベキュー
- ・ シェア畑→農業体験
- ・ ラジオ、クラブハウス、ライブ配信する場所
- ・ YouTuberにスタジオとして貸し出す
- ・ 文房具&駄菓子屋（子供が一人で買いに行ける）
- ・ 太陽光発電設備が設置されている避難所
- ・ 無線の歴史が学べる産業博物館
- ・ オフィス
- ・ 豆腐屋
- ・ ドローン基地
- ・ クラフトビール店
- ・ パン屋

ディスカッション総括

Aグループでは「ドローン基地」や「オンライン診療の場」など先端技術に着目した提案のほか、「シェア畑→農業体験」や『老人福祉施設&学童』といった世代を超えた人々の交流を望む提案など、様々な利活用案が提示された。これらの提案で共通していた点は、送信所の歴史的な価値を尊重しながら建物を転用して活用することであり、利活用の方向性としては周辺住民が日常的に利用できるような施設を目指すことであった。



土日の過ごし方

- ・釣り
- ・サーフィン
- ・マラソン

送信所利活用方針

- ・人々の接点になる場所
- ・地域の周辺施設とコラボ
- ・1つではなく様々なことを楽しめる場所
- ・地球を感じる場所
- ・体を動かす場所
- ・スポーツを楽しめる場所
- ・紙飛行機が飛ばせる場所
- ・小学生が遊べる広場
- ・チョークアートなど自由に落書きできる場所

利活用に対する課題

- ・維持費、運営費をどう賄うか

検見川及び周辺エリアの魅力・特徴

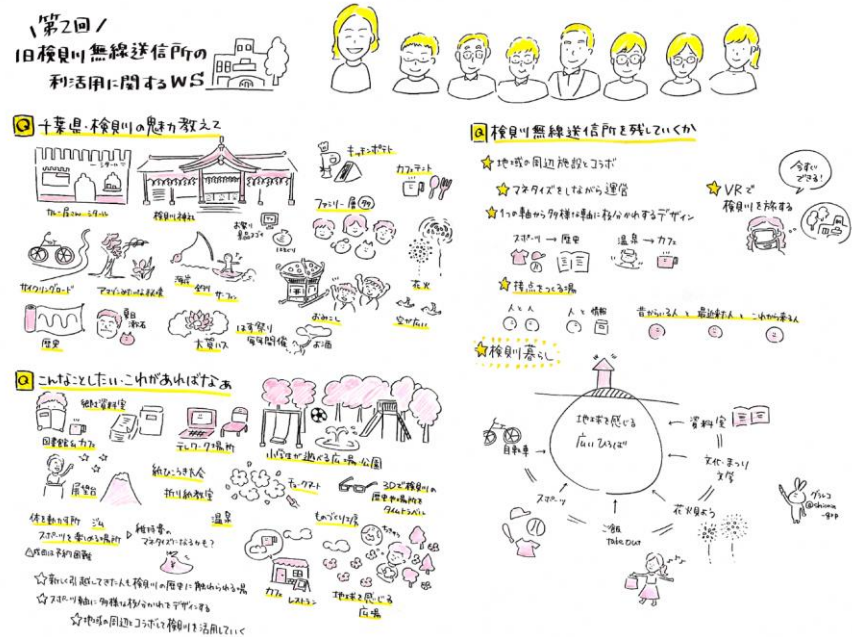
- ・ 印度料理シタール
- ・ 検見川神社
- ・ キッチンポテト
- ・ cafe tento
- ・ 幕張の花火が見える
- ・ 海岸が近い
- ・ 大賀蓮
- ・ はす酒
- ・ アマゾンのような秘境がある
- ・ サイクリングロード
- ・ 歴史
- ・ 空が広い
- ・ ファミリー層が厚い

送信所利活用の方法

- ・ 郷土資料館
- ・ 温泉
- ・ テレワーク場所
- ・ ジム
- ・ 公園
- ・ 展望台
- ・ レストラン
- ・ 図書館とカフェの融合スペース
- ・ 3Dで検見川の歴史や場所をタイムトラベル
- ・ ものづくり工房
- ・ 展望カフェ
- ・ 夕食が安く買える惣菜屋

ディスカッション総括

Bグループは送信所を「人と人、人と物、人と情報で様々なつながりができる場」にしようというコンセプトへ集約された。検見川町の人口は増加しているものの、地域の方々と結びつけるような場所やコミュニティがなく、地域のつながりが希薄になっていることから、地域の人々などがつながる場所（拠点）にしようという意見に注目が集まった。また、このような利用方針を踏まえ、建物の保存については、必ずしも建築当初の状態に復元する必要はなく、建物を転用して活用するという方向でまとまった。



土日の過ごし方

- ・イオンモール幕張新都心
- ・海浜幕張
- ・ドッグラン
- ・ジム

検見川及び周辺エリアの魅力・特徴

- ・ベイエリアに外国人増加中
- ・印度料理シタール
- ・サイクリングロード
- ・穏やかで住みやすい
- ・若年層の増加
- ・外国人が増えている

利活用に対する課題

- ・窓が少ないため、カフェは難しい
- ・歴史的価値の存続と利活用の両立

送信所利活用方針

- ・検見川らしい地域ブランドを伝える
- ・若者に響く建物にしたい
- ・立地（住宅地に近い）を意識
- ・野外も活用
- ・人と人の関わり
- ・多人種が関わりあう集いの場
- ・建物を残して活用する
- ・室内、室外どちらも活用したオープンスペース
- ・世代を選ばない
- ・地域の活性化を促せる

送信所利活用の方法

- ・ オープンスペース
- ・ 博物館
- ・ コワーキングスペース
- ・ 防音効果を活かしたスタジオ、飲食店
- ・ マルシェ
- ・ 屋外型フィットネス
- ・ ジム
- ・ ブルワリー



ディスカッション総括

Cグループでは「マルシェ」や「クラフトビール・ブルワリー」など地域ブランドを創出する提案や『オープンスペース』など建物の屋外を活用する提案など様々な利活用案が提示された。これらの提案で共通していた点は、送信所の歴史を残しながら利活用することであり、利活用の方向性としては、多種多様な関わりが生まれるような『集う場所』を目指すことであった。また、このような利活用の方向性を踏まえ、建物の保存については、必ずしも建築当初の状態に復元する必要はなく、建物を転用して活用するという方向でまとまった。

土日の過ごし方

- ・イオンモール幕張新都心
- ・京成線沿いに遊びに行く
- ・買い物

送信所利活用方針

- ・人が集まる場所
- ・周辺住民も外部の方も自由に使える場所
- ・歴史的価値をそのまま遺したい
- ・元の形に戻して美しくしたい
- ・地域に有用なものにしたい

利活用に対する課題

- ・維持費、管理費をどう賄うか
- ・外観が不気味なので子供が怖がるのではないか

検見川及び周辺エリアの魅力・特徴

- ・住みやすい街
- ・ベッドタウン（住宅中心の街）
- ・リモートワークで若い男性も増えた
- ・飲食店多い
- ・緑が多い
- ・公園、遊歩道
- ・お味噌づくりワークショップ
- ・検見川神社夏祭り
- ・カレー屋（印度料理シタール）
- ・中華料理屋
- ・肉屋
- ・カフェ & ピッツァ ザオー
- ・蕎麦屋

送信所利活用の方法

- ・カフェ
- ・ドッグラン
- ・共同ガーデン
- ・ハーブガーデン
- ・屋上ビアガーデン
- ・屋上庭園
- ・音楽会
- ・お茶教室
- ・星空観賞
- ・通信の歴史資料館
- ・日ごとに住民の特技を生かしたワークショップ
- ・文書をまとめた図書館のようなもの
- ・日本から世界に情報を発信する場所
- ・ランニング休憩所
- ・暗室を活用したもの
- ・ラテアート
- ・本格的な木材加工ができる場所
- ・太陽光発電装置の設置
- ・フィットネス



ディスカッション総括

Dグループでは「カフェ」、「ビアガーデン」及び「音楽会」など外部からも人々を集めるような利活用を期待する声が多く、電波を発信していた送信所の特徴を踏まえ、『人々の熱意を発信できる場』というコンセプトが最も共感を集めた。また、このような利活用の方向性を踏まえ、建物の保存については、必ずしも建築当初の状態に復元する必要はなく、建物を転用して活用するという方向でまとまった。





3. 総括

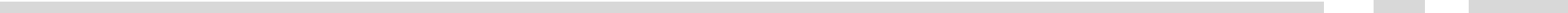


今回のグループディスカッションでは、全グループ「建物を転用して利活用したい」という意見で一致していた。どのグループにおいても、「集う」「交流する」などのキーワードが多く出ており、送信所の利活用を機に周辺の町の活性化を期待する様子が窺えた。

また、総括ファシリテーター山崎氏の総評は以下のとおり。

- ・今回のワークショップは多くの若い方が自分の意思で参加し、良いアイデアを出してくれて、送信所の保存・利活用を話し合うプロジェクトの未来は明るいと感じた
- ・すごくいいアイデア、新しいアイデアがたくさん出ただけでなく、どのような経営・運営をするかなど今後話し合われるべき具現的なことにまで話が進んでいるグループもあり、驚きと発見があった
- ・近所に住んでいる方も遠くに住んでいる方も、検見川への想いが強いことを実感した
- ・何回もワークショップを続けてアイデアを広げていく中で良いアイデアが絞られていくので、制限のない今はアイデアを広げることが大事
- ・今後様々なアイデアが出る中で、自分もみんなもいいと思ったアイデアを融合して行ってほしい





第2回 旧検見川無線送信所の利活用に関する
ワークショップ等開催業務委託報告書

令和3年3月発行

発行 千葉市教育委員会事務局
生涯学習部文化財課
千葉県千葉市中央区問屋町1-35
ポートサイドタワー11階

編集 株式会社拓匠開発
千葉県千葉市中央区弁天2-20-2

